

⑨ 畑作農地

色彩的特徴



平坦な地形に広がる畑作農地



山に囲まれた畑作農地

特徴的な色彩は、「農作物の色彩」と「土の色」です。

農作物の色は、自然の樹木の色に比べて一段と明るく鮮やかなイエローグリーンです。

土の色は山肌やグラウンドに見る土の色に比べて、一段と暗い有機化した土の色です。

景観の印象は、地形によって二分されます。ひとつは比較的平坦な広い地形で、上部は空が大半を占める開放的な景観となっています。もうひとつは中景や近景の山が背景にある落ち着いた農村景観です。

色彩選定のポイント

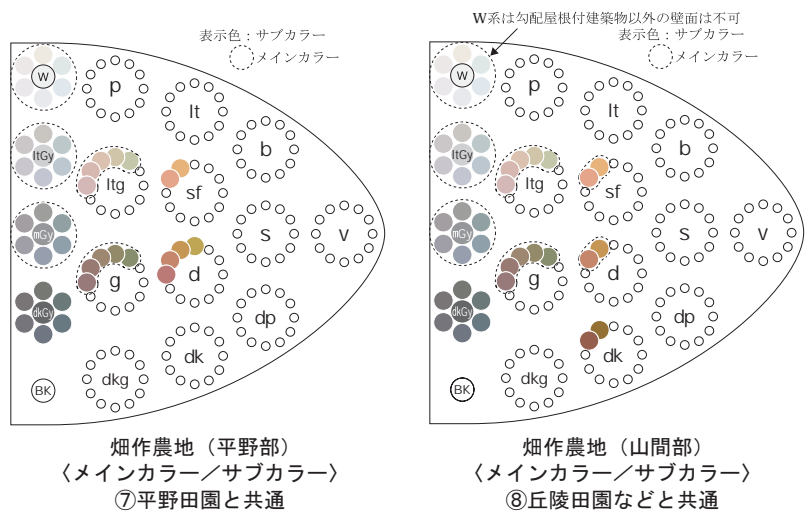
農作物の色や全体的な形状は田園景観とは多少異なりますが、構成色の多くが自然素材色ということもあり、色彩選定のポイントは田園景観の場合とあまり変わることがありません。

視界の開けた開放的な畑作農地景観は⑦平野田園に、山が背景となる落ち着いた畑作農地は⑧丘陵・盆地・山間田園の考え方と同様です。

メインカラー／サブカラー選定の考え方

農作物を含む自然の素材色が多くを占める景観ですから、人工構造物の色彩選定にあたっては、周囲の素材色を主役とする配慮が必要です。

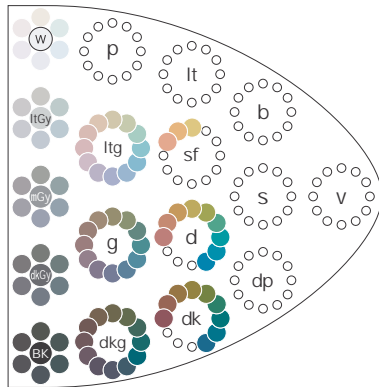
この地域も生活圏ですから、自然景観の落ち着いた雰囲気を持続することと、あまり暗くなりすぎないことを両立させなければなりません。このあたりの調整をサブカラーで行ないます。



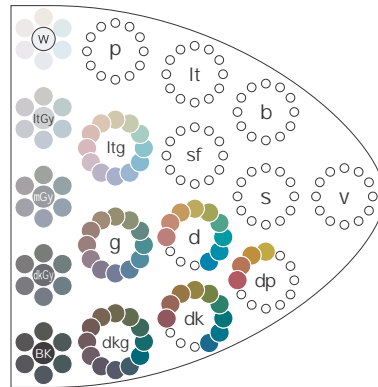
ただし、陸屋根の建築物にあまり明るい色を用いると背景から浮いてしまいますのでホワイト系は避けた方がよいでしょう。

リブカラー／アクセントカラー

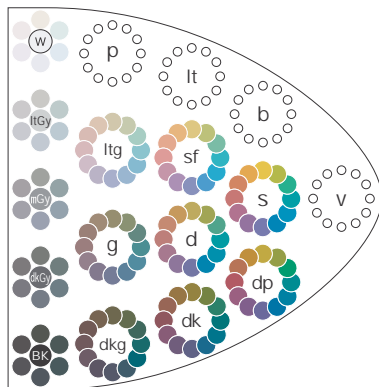
農産物などの自然素材の色で構成された景観ですから、人工的な印象が強くなるソフトーンやストロングトーンを用いるときは面積比や形状また施す位置に配慮が必要です。



畑作農地（平野部）〈リブカラー〉
⑦平野田園と共通



畑作農地（山間部）〈リブカラー〉
⑧丘陵田園などと共通



畑作農地〈アクセントカラー〉
⑦平野田園・⑧丘陵田園などと共通

色彩範囲およびカラーパレットについては、広い平野に展開する畑作農地は⑦平野田園を、山に囲まれた畑作農地は⑧丘陵・盆地・山間田園を参照してください。

⑩ 山中

色彩的特徴

谷底では、山肌の落ち葉や笹、また樹木の幹、葉色が近景として視野の多くを占めます。視線上部には、あまり大気の影響を受けない距離にある中景の山腹が見えます。

山の頂上部では、近くの山から遠方の山並みに至るにしたがって、徐々に青みを帯びて空気に溶け込んでいく様子が確認できます。また季節による変動にも顕著なものがあります。

春は若芽の淡いイエローグリーン、夏は濃い緑(オリーブグリーン)、秋はイエロー系やオレンジ系の模様が入り、冬にはイエロー系やオレンジ系に染まっていた部分が枯れてブラウン系になりさらに落葉して枝となり山肌の落ち葉が見えます。

雪が積もると色みは消え濃淡の世界になり、雪の間から見える常緑樹も雪との対比でかなり暗く見えますが、竹藪の明るいイエローグリーンが彩りを添えます。

スギやヒノキの人工林が多いところでは景観色の変化は少なく、自然性の高い混成林では季節変動が大きくなります。

色彩選定のポイント

この地域は樹木の葉色が景観色の大部分を占めます。それが良好な景観の要因となっています。普通の民家も農地もなく、一般的な生活圏ではありません。自然景勝地が多く国立公園や自然公園として親しまれている地域もあり、できるだけ自然景観の印象を変えない配慮が必要です。人工構造物も自然景観に対して融和する色彩が望まれます。

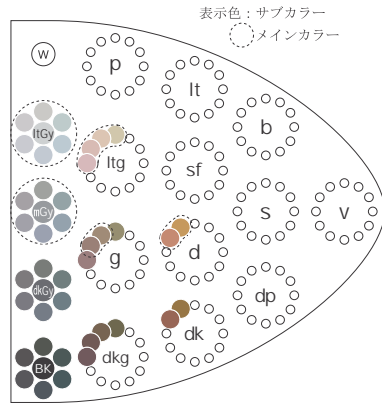
メインカラー／サブカラー選定の考え方

樹木の葉色を中心にした自然景観に融和する色彩は、土・砂・岩などのアースカラーです。周辺の葉色に対して明暗のコントラストを少しつけたアースカラーが、最もよく融和した印象となります。それに対して、明るく、葉色に対して強い明暗のコントラストとなる色をメインカラーとすると、その色が浮き上がって見えます。鮮やかな色と同様に明るすぎる色は自然景観の印象を変えてしまいますので、避けた方がよいでしょう。

広い面積にメインカラー1色を用いるよりも、異なる色を部分的に用いる方が自然景観になじみやすいケースが多くあります。そのようなケースではこのサブカラーで対処してください。サブカラーの範囲はメインカラーより広がっています。



地域の土、砂、岩などの類似色や自然素材で作られ、自然景観に調和した護岸や堰
(現状：上が秋、下が春)



山中〈メインカラー／サブカラー〉



白い建物が自然景観の中で浮き立ち、原則からはずれている（現状の夏・秋）

リブカラー

ホワイト系やディープトーンは自然景観に対してコントラストの強い色ですから、コンセプトを明確にし、さらにカラーシミュレーション画像などによる検討を実施する必要があります。



建物壁面の明度を落とすことで、自然景観と橋梁が引き立って感じられる

グレイッシュイエロー



ベージュ



ダークレッド



ダークイエロー



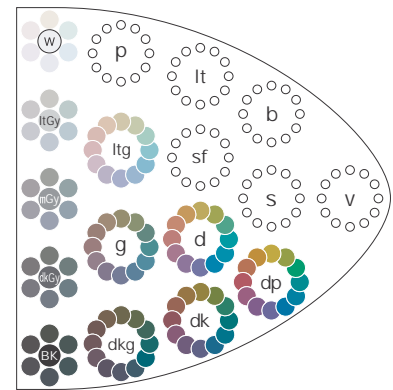
グレイッシュイエローグリーン



ダークグリーン



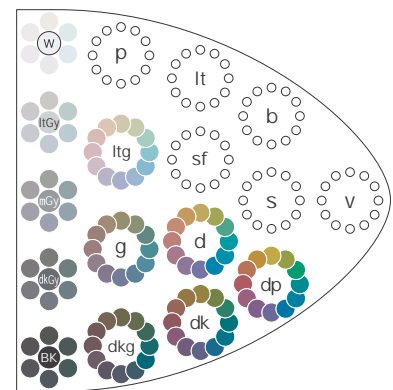
推奨色による橋梁のカラーバリエーション



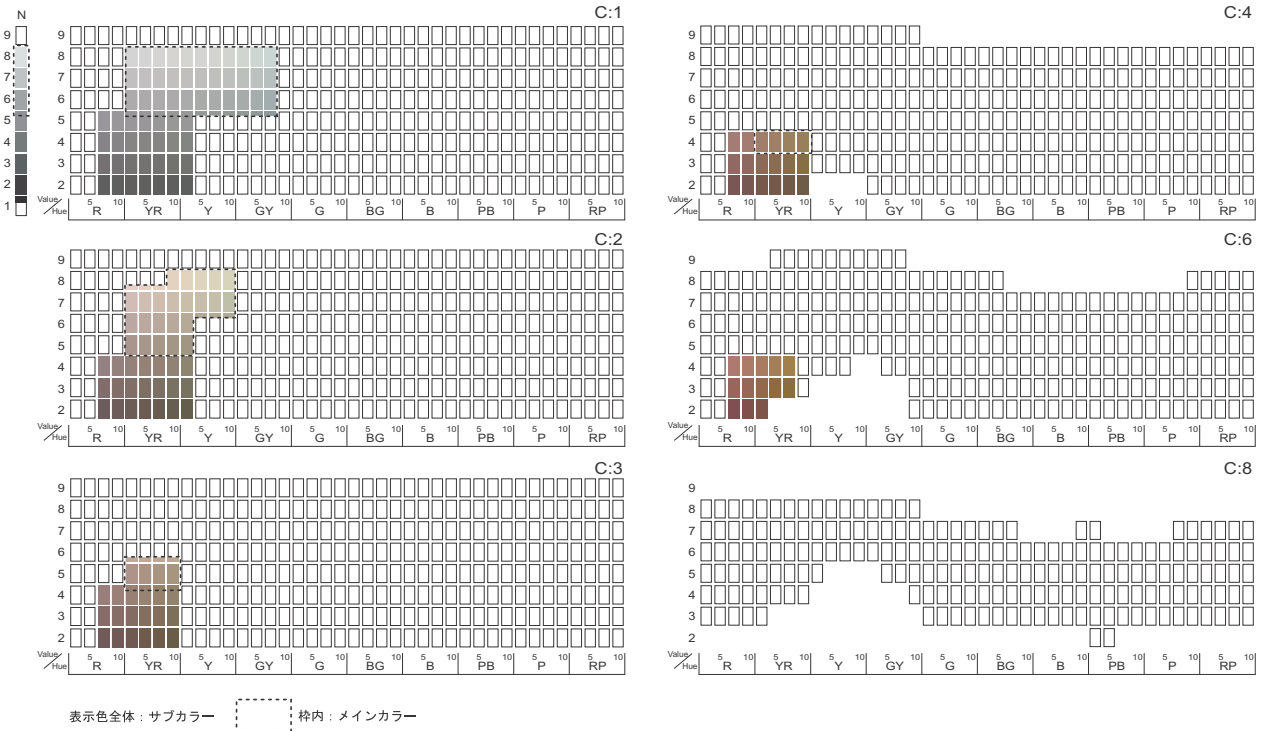
山中〈リブカラー〉

アクセントカラーの配色法

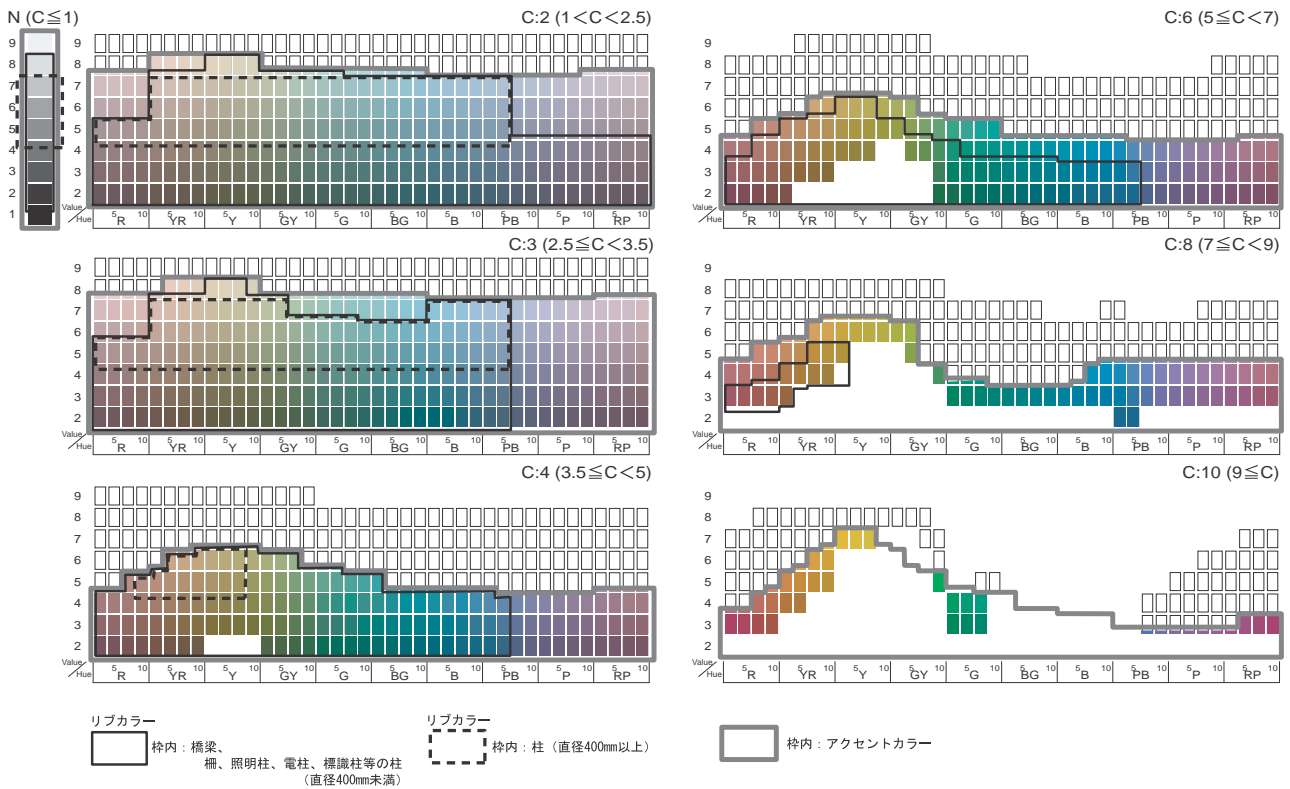
近景における魅力づくりにアクセントカラーを用いる場合においても、周辺の自然景観の雰囲気を変えぬ配慮が必要です。特にソフトトーンやストロングトーンを用いる場合は、面積比や設置位置などの検討が必要です。



山中〈アクセントカラー〉



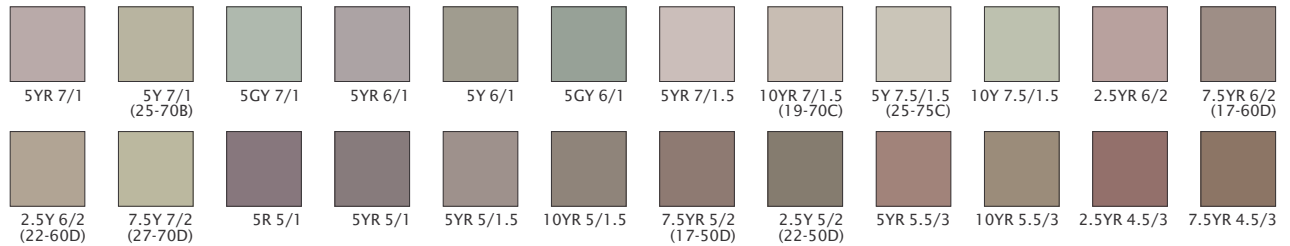
山中〈メインカラー／サブカラー〉



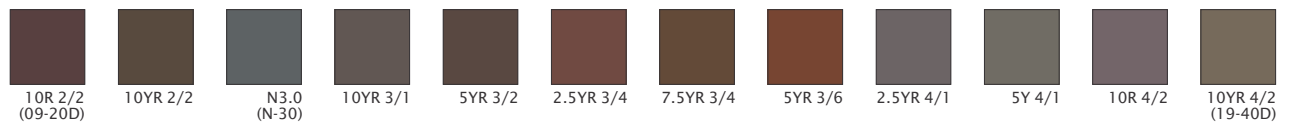
山中〈リブカラー／アクセントカラー〉

カラーパレット 山中

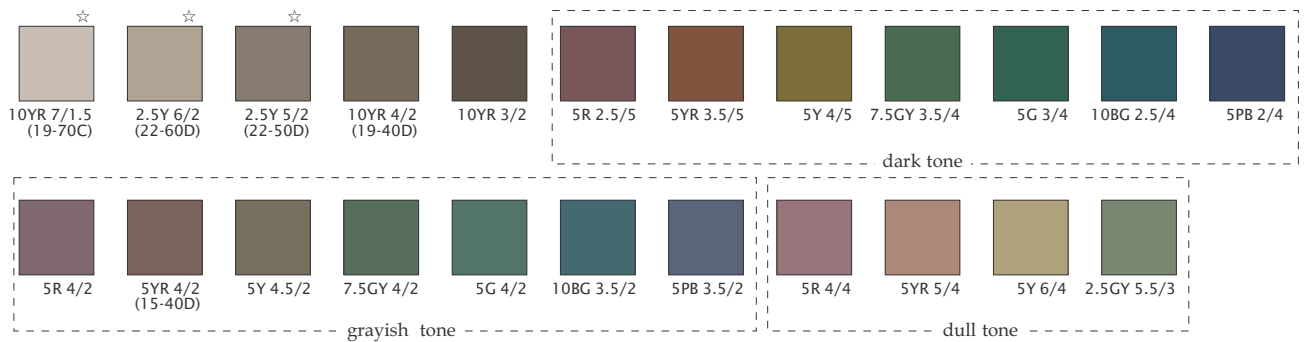
メインカラー



サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)

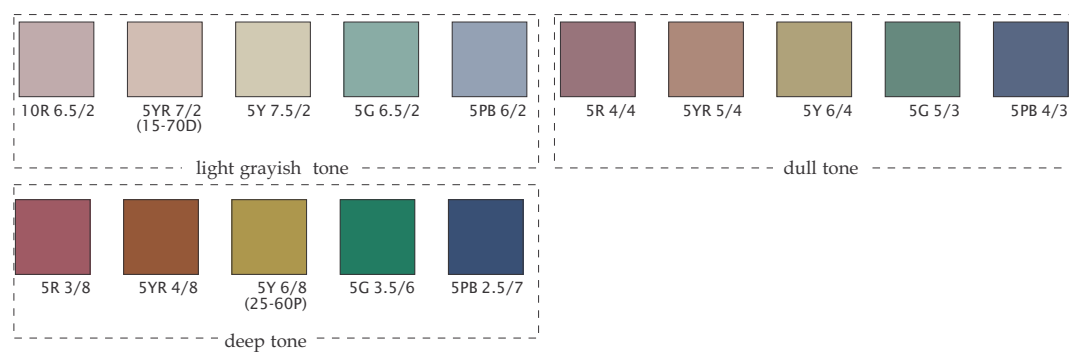


リブカラー



直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)



⑪ 高原

色彩的特徴



春



夏



秋



冬

春夏の明るいイエローグリーン系の草原は、秋冬にはイエロー系の枯草色になるが、いずれも明るく、地形から受ける開放的な印象は強調されます。

夏は、草地と樹木はほとんど同じ色相（イエローグリーン系）で、トーン（色調）の違いによって、明快なコントラストのついた景観となります。

秋は、落葉樹の紅葉があり、さらに草原が枯れて、全体の景観色はイエロー系やレッド系まで広がります。樹木と草原のトーンによるコントラストと落葉樹の色相のバリエーションは、自然が演出した色彩表現といえるでしょう。

色彩選定のポイント

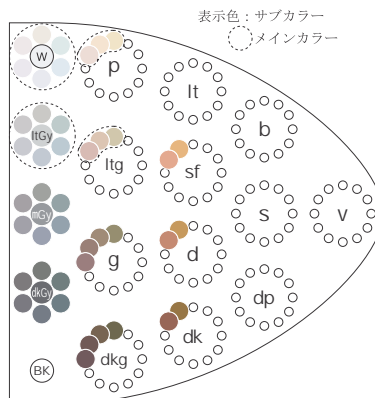
山中と同様に景観構成色のほとんどが、自然素材の色彩です。この地域は、ハイキングやキャンプからスキーまで四季を通じて親しまれ、その景観も社会的資源として大切にされています。自然環境の保全が前提となる景観ですから、色彩についても同様の配慮が必要となります。

メインカラー／サブカラー選定の考え方

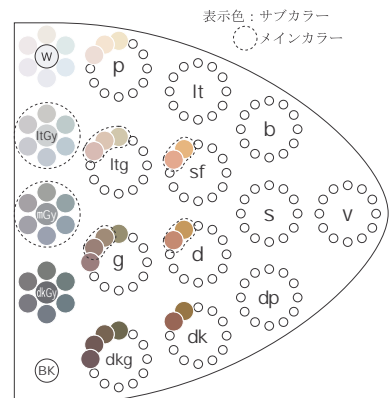
自然環境の色彩は山中景観と類似した部分がありますが、草原の明るい色彩や広い空が高原景観独自の特徴となっています。

高原景観の場合、視点場によって背景が空になる場合と山になる場合があります、それにより、色彩選定の方向性が異なってきます。背景が空の場合は明るく開放的に、山背景の場合は落ち着いた印象となる色彩を選定することが望ましいでしょう。

四季を通して利用される地域については、各シーズンにわ



高原・背景が空の場合
〈メインカラー／サブカラー〉



高原・背景が山などの場合
〈メインカラー／サブカラー〉

グレイッシュブラウン



ライトグレイッシュブラウン



グレイッシュイエロー（ページュ寄り）



グレイッシュイエロー（グリーン寄り）



グレイッシュブラウン



推奨色による建物外観のカラーバリエーション（季節別）
 同じ壁面色でも季節による景観色が変化するため、その表情は変わります。四季にわたる検討が必要です。

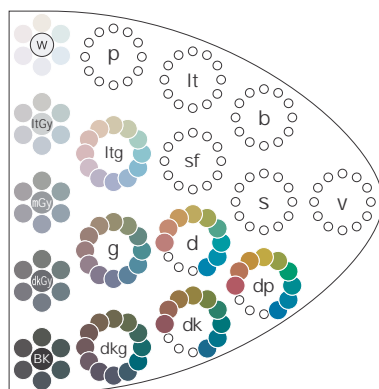
たる検討が望まれます。

ここでは各シーズンと色彩の関係を検討できる資料として、
 シミュレーション画像を掲載しました。

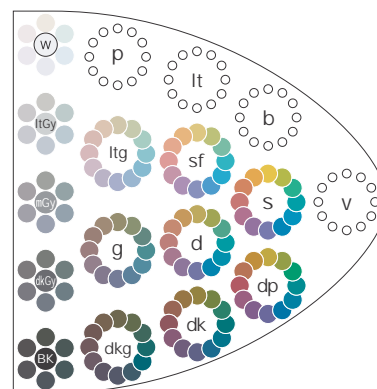
リブカラー／アクセントカラー

リブカラーは、自然景観が主役ですから、人工的印象の色
 は避けています。

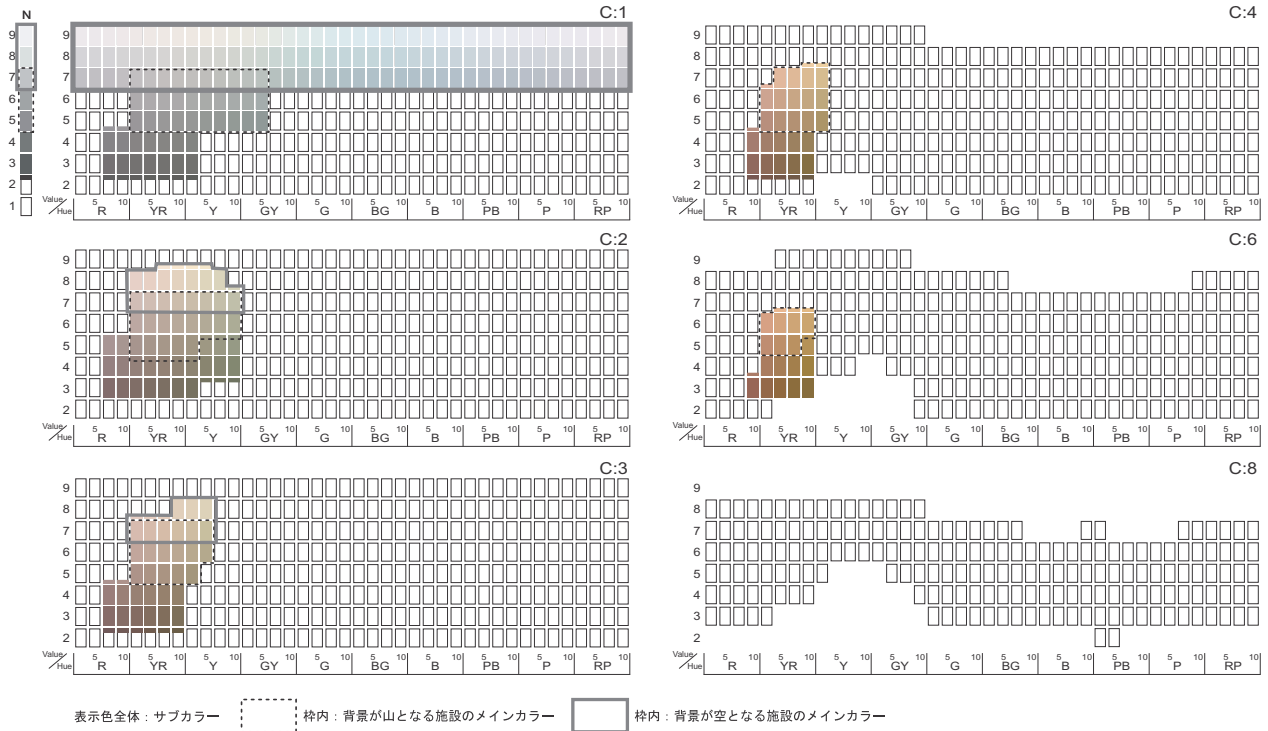
アクセントカラーは、冬場の
 寒々しい景観に彩りを与える役
 割もあります。シーズンによって
 使用法を変える試みがあっても
 よいでしょう。



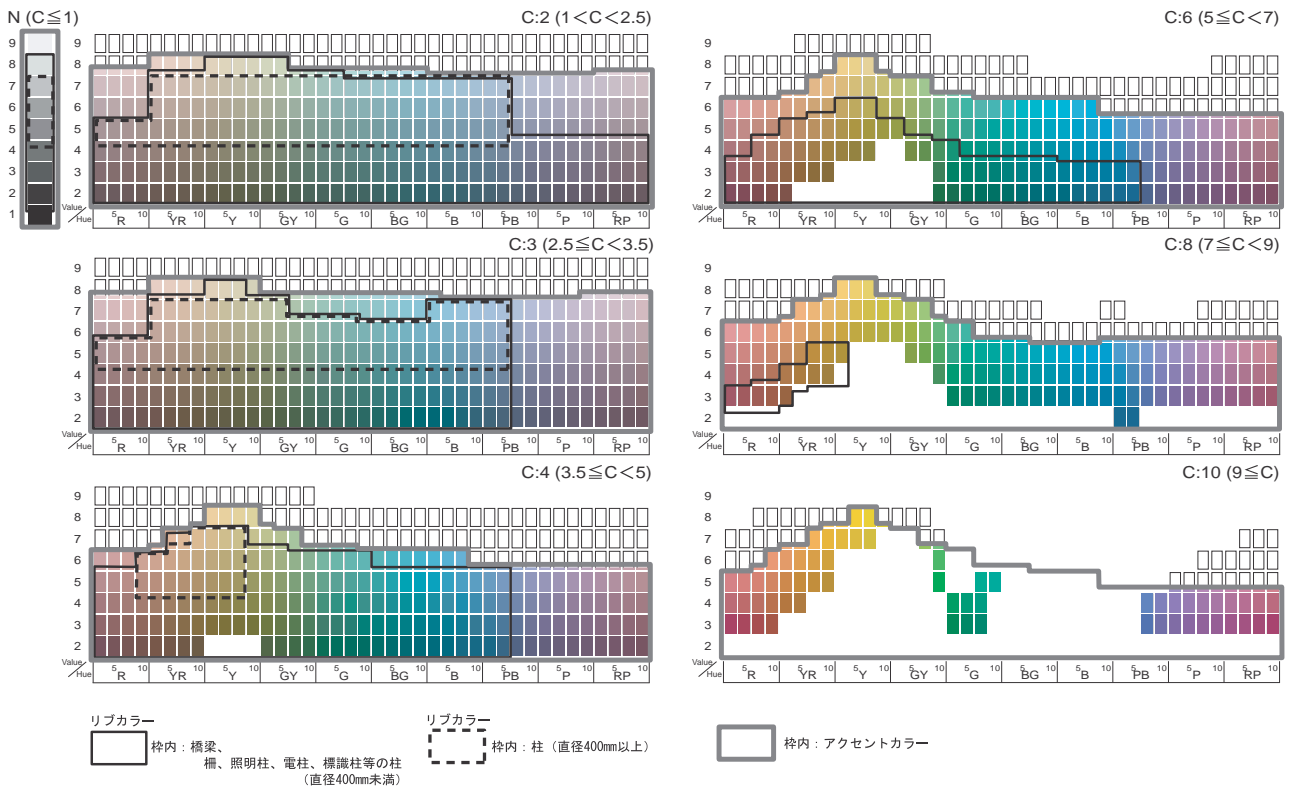
高原 <リブカラー>



高原 <アクセントカラー>



高原〈メインカラー／サブカラー〉

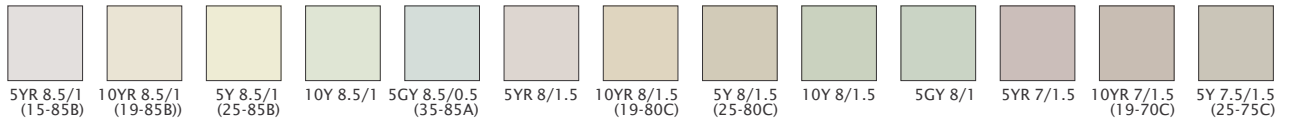


高原〈リブカラー／アクセントカラー〉

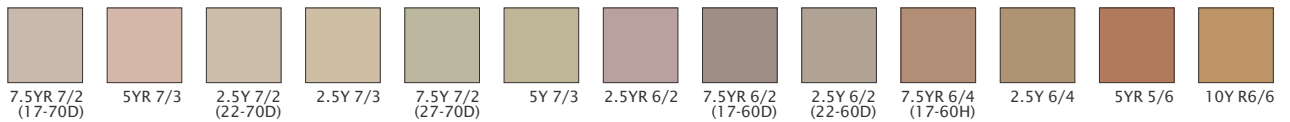
カラーパレット 高原

メインカラー

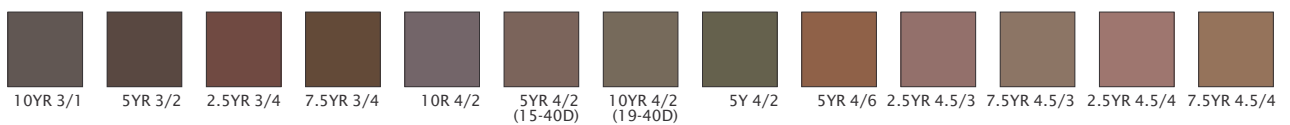
■背景が空となる施設



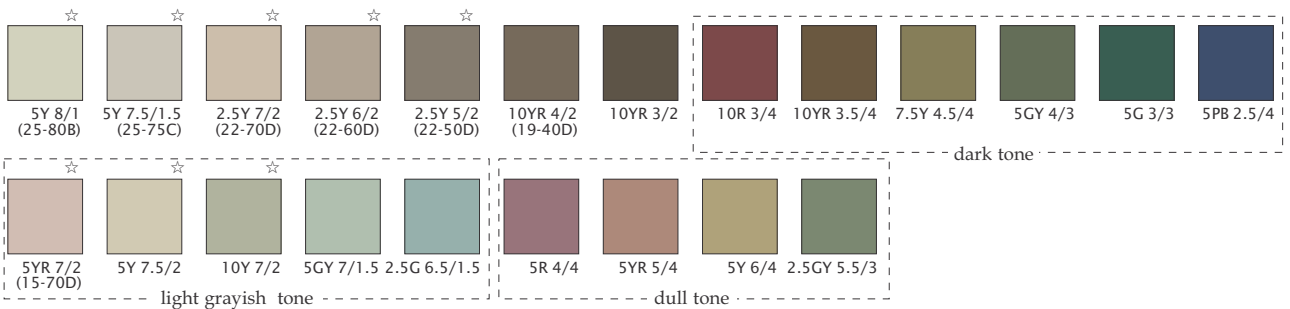
■背景が山となる施設



サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)



リブカラー



直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)

